

ANCS ミニ Meeting

日時 7月4日(土) 9時00分～11時00分
会場 zoom

【参加者一覧】

【大学】

岡山大学大学院

清田 哲男 教授

【小中高 教員】

大阪市立天王寺中学校

田窪 真樹 先生

滋賀大学附属小学校

木村 仁 先生

岡山県立玉島高等学校

妹尾 佑介 先生

岡山大学教育学部附属小学校

武田 聡一郎 先生

岡山市立福浜中学校

松浦 藍



子どもの 営みにつ いて

妹尾： 本日は、**木村仁先生の実践の動画と報告書**があります。
ANCS の見方も含め、**よりよい実践にするにはどうすればよいのか**を考えていけたらと思います。
本日の資料等は大丈夫でしょうか。

木村： よろしくお願いいたします。妹尾先生と話していたことなのですが、**フォーマットに落とし込む時に良かった点と悩んだ点**があります。
あのフォーマットは、**子どもが普段考えているごく自然なこと**である。
しかし、**教師としては見逃しがち**。授業としての枠組みに当てはめて考えると、見逃していたことがある。

本日の実践は、**小学校1年生**。昨年度、担任していた児童です。
昨年、コロナ禍により、**パーティションとして透明なフィルムがたくさんあった変な状況**だったころ。

透明なパーテーションがあると、子どもなら透明なものに猫とかいろいろなものを描くんじゃないかな、と思ったことがきっかけになった題材です。
それを突然させるだけでは子どもにとってやりたいことにならないので、頃合いを見ていました。

妹尾：フォーマットにまとめる中で難しかったところについてもう少しお話をください。

木村： **ステップ2とステップ3の境目が分かりにくかった。**

子どもたちにとって、分からないことが何か、これやってみようというきっかけと、それが成熟して次やってみようと思う境目、段階が分からなかった。
特に、小学校1年生だったので、教師が見えていないなと思いました。

妹尾： **ステップ2とステップ3は往還することかもしれないです。**

小さなステップ2, 3, 4が繰り返されているのかもしれない

清田：木村先生がおっしゃったところですが、**ステップ2～3についてですが、授業の中で一通りなされるわけではない。**

普段の生活から、**小さなサイクルが繰り返されている。**

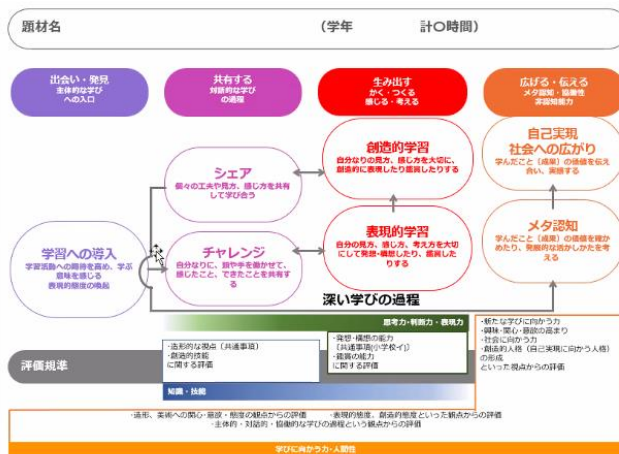
その繰り返しによって、**子どもたちが「あれしてみよう」「こうしてみたい」等の意識がわいてきやすくなる。**

マジックがきゅっきゅという音をするだけでも**面白いから次の活動につながることもある。**その繰り返しは、生活への発見を促すことになる。

生活への発見を促すことは、大人になっても新しいものを見つけ続けられるようになる。

サイクルも、子どもの性格や状況によって、時間も早さも異なってくる。

学びの構造図は、授業の中での展開ですが、ANCSのステップは子どもの生きる営みの中でなされていること。



清田、大橋（2018）美術教育概論—新訂版—

この流れを教師が作ると、**子どもが自分で作られなくなる。**

子どもたち自身が、この流れを作ることが大切になる。





授業動画を見る前に

清田：授業動画を見る前に、木村先生が授業の環境をどのように整えられているのかなどについてお話いただいてはどうでしょうか。

中学校の先生からしたら当たり前前の状況が、小学校の先生からしたら「しつらえ

	<p>た」ような環境であることがあるからです。 といったプレッシャーをかけてみてください笑</p> <p>では、再生いたします。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------

●授業実践 滋賀大学附属小学校 木村仁先生 「〇〇のおさんぽ」

<p>授業</p>	<p>木村： 動画では、ステップ2のところを撮影しています。</p>  <p>「いいこと思いついた！」</p>  <p>「ひよこのお母さん」「ひよこが逆立ちするよ」</p>   <p>「金曜日の世界」「こっちは火曜日」</p>
<p>活動への 子どもの 姿勢</p>	<p>妹尾： 活動がだんだん盛り上がりていることが分かりました。 ご感想、ご質問などないでしょうか。</p>

	<p>田窪： 木村先生、ありがとうございます。</p> <p>活動する場所がいつもの場所でなく、子どもたちが動き回りながら活動できていることがすごく素晴らしくて、うらやましいな、と思いました。</p> <p>授業に参加できない、周りに関われない生徒が一定数いるのですが、なかなかうまくいかないことがあるのですが、いかがでしたか。</p> <p>木村： そうくんとおおかせさんぽという絵本を読み、授業の中で「だれとおさんぽしたいか」と考えてから始めた。</p> <p>自分の世界に没頭した子どももいるし、他のお友達が作った世界を楽しもうとする子どももいた。</p> <p>田窪： 中学校なので、評価のことや授業の枠について考えてしまう。</p> <p>子どもたちが考えて、活動できる授業はいいなと思います。</p>
<p>環境と 題材との 出会い</p>	<p>武田： 透明シートがすごく気になった。</p> <p>渡り廊下に設置されているのでしょうか。</p> <p>教室から渡り廊下に出ていこうという流れの詳細を教えてください。</p> <p>木村： おさんぽしたい相手考えた後、「じゃあ本当におさんぽさせてみよう」という話をしてから、渡り廊下にでて活動を行いました。</p> <p>妹尾： 透明シートが今回のポイントになるところだと思う。</p> <p>実際にやってみてどうでしたか？</p> <p>木村： 4, 5月にしたのではできていなかったと思う。</p> <p>2月にしたから、透明シートを張ってから描いたり、ペンをしっかりもつことが出来たのだと思う。</p> <p>シートは交換しようかどうかを悩んでいた。</p> <p>「新しいシート頂戴」という要望があれば出そうと思っていた。</p> <p>しかし、お互いに見せ合ったりしていたので、特に新しく出しませんでした。</p> <p>妹尾： あと、色々なコミュニケーションがなされていました。</p> <p>でも、床に紙、柱に透明シートがあったらどうなっていたのだろうか、とも思う。</p> <p>木村： 上下で活動することは念頭になかった。</p> <p>でも、子どもたちを囲うようにシートを張り巡らせることもできたかと思った。</p> <p>子どもが色々な場所に行き来しやすい環境にしようと思っていた。</p> <p>小1は自分の見えているところに没頭しがちではある。</p> <p>それが不自然にならない様にすることができるようにした。</p> <p>他のお友達がおもしろいなと思えたら、すぐ移動できるようにしてみた。</p>

<p>場の設定 について</p>	<p>清田： 素晴らしい取り組みだと思います。 子どもの空間認識を考えたら、小2までの題材だと思います。 透明シートに、他視点的に描けるのはこの題材までかな、と思う。 お互いに向き合って描けるのは、白い服を着ていたから。 柱の横に立って、両面見ている子どもがいた。 向こう側に人がいる状態で絵が描ける面白さが大切だったと思う。</p> <p>初めて透明シートを見つけたときの様子が気になりました。 空中に浮かして書くのではなく、接地面があることで安心して描けることもある。一本の木をシートで包むこともできる。 中学校でもできたり、できなかつたりだと思う。 ただ、中学校も含め、教室だけでなく、学校すべての場全てが教育活動の場であるという認識はもっておきたい。</p> <p>透明シートを使った活動なので、透明シートに直接書き込んだ子どももいるはず。シートの向こう側にいるお友達を描いたら、遠近法で小さくなっていることに気づいた子どももいるかもしれない。 高学年になれば、透明シートを挟んだ世界、挟まない世界に気づく。それを楽しむことがあったかもしれない。</p> <p>マジックの影ができたらしおもしろいかもしれない。 それに気づいた子どもがいたら、雨傘に描きたいということもあるかもしれない。</p>
<p>ANCS と 評価</p>	<p>清田： 多くの中学校の先生が気になるのは、評価のことかもしれない。 評価Bを越えさせるための手立てを考える。 ただ、ANCSでは最終的には、評価を度外視したらどんな授業になるのかを考えていきたい。</p> <p>妹尾： 動画の中で、清田先生がおっしゃられたように、色々な発言があった。 では、後半は実践報告書を見ての討議に移りたいと思います。</p>

●実践報告書

<p>題材紹介</p>	<p>木村： 今回の題材は、「自己を深める」と「共感性」を取り上げました。 特に、「自己を深める」ねらいにおいて「表現が多岐にわたる中で、「わたしはもっと〇〇したい」と思いを持つことが、自分の価値観を更新していくことにつながるのです。」が検討したいところです。</p>
<p>「自己を 深める」 の ねらい 検討</p>	<p>清田： ねらいについて、妹尾先生はどのように考えられましたか。</p> <p>妹尾： 後半の、「私は〇〇したい」のところが非常に納得できる。 相互に活動がなされているよりも、大きな画面に書くことや、透明シートとの出会いについての内容が、「〇〇したい」とつながっているのかもしれない。</p>

	<p>清田： 最終的に「自己を深める」が、描いているうちに変化していく、それが透明シートに残っていくこと。自分の「〇〇したい」の変化を知る。 自分の知覚してきたもので変化しているのは、「深く見つめる」かもしれない。</p> <p>前半部分と後半部分は、観点が異なるのかもしれない。</p> <p>願いをどう作るのかが大切なのだと思う。 どんな困難があっても乗り越えることが必要になってくる。 たとえば、シートがぐちゃぐちゃすることなど。 ひよこが逆立ちしてるなど、やりながら自分のやりたいことが展開していく。</p> <p>自分のやっていることが深まっているから、やりたいことが変化していくはず。</p> <p>たとえば、報告書の自己を深めるは、題材紹介の深めるとはまた違うものになったという「教師の発見」があると面白いと思う。 こういう雰囲気ができるのも、1年間木村先生が育てられたからで、春にできなかったのは、そういう意味だと思いました。</p>
<p>検討する 意義</p>	<p>妹尾： 実践紹介は、題材を一般的に考えるとこういうもの、という説明する。 報告書は、実際の子ども、勤務校の実態に即して、こんな面もあった、という流れになってもいいのかもしれない。</p> <p>柱の間に立って、見ていた子どもの姿を見逃していた。そういうところをお互いに共有できるといいのではと思いました。 まだ、自己を深めるや共感性について理解できていないなと思いました。 実践紹介の役割として、長い文章よりも、一文で表せることがあると思う。</p> <p>田窪： 今回の題材として、自己を深めるが最終的な着地点かもしれないが、場の設定からすると、共感性というお友達との関わりの中で大切なことなのではないかなと思った。</p>
<p>「共感性」 について</p>	<p>武田： お互いの様子を見ながら活動をしていくことについては、とても納得できた。</p> <p>妹尾： いいことおもいついた！という言葉自体は、自己を深めるかもしれないが、それに至るまでの共感性によってでてきた言葉かもしれない。 〇〇ちゃん見て、こういうことしてみたい！などの言葉がでてくることも、自己を深めることも大切かもしれない。</p> <p>清田： 「〇〇しようよ」という言葉を発するまで、どんな心の動きができることが重要。 他者がおもしろがっていたのかもしれない、その子が一人でさみしそうだったからかもしれない。</p>

	<p>子ども同士の心の動きに寄り添う、感じ取るということで「共感性」どういう意味合いなのかが変わってくる。</p> <p>〇〇が面白そうだからやろう、は共感性とは言い切れない。</p> <p>木村： 実際の授業の中では、自分たちのテリトリーがない。 自分が描こうと思っていたところに、友達が描いたこともあった。</p> <p>妹尾： でも、みんなでやったほうが面白いよね、楽しいよね、という人の思いを汲み取ることができたのか、を考えることができる。 ひよこの逆立ちについても、向こう側に人がいるからできたやり取りだと思う。</p> <p>清田： 主として他者とのかかわりについてのこと。 いいこと思いついた、とって他者と関わろうとすることは大切。 ただ、「共感性」という言葉自体を考えなおすことが必要なのだと思う。</p>
<p>実践紹介 について</p>	<p>清田： 実践紹介の2ページ目の書き方について考えるということはいかがでしょうか。 木村先生のご実践だけでなく、他の学校の先生の取り組みがあってもいいのかもしれない。1校だけだと、こうしなければいけないという枠がありそう。</p> <p>妹尾： 透明シートで、背景がそれぞれかわり、新たなおさんぼの状況を作るのかと思っていた。しかし、実際は周りの人も含めた風景とお散歩という状況にマッチしていたか、という思いも出てくる。</p> <p>木村： 自分が表したいことを工夫していく、というところに終着するために、透明シートを用いた。 共感することが目的ではないと、誤解がないようにしなければいけない。 授業を實際して、子どもとやり取りをすると、何をすることを大切にしていたんだろ、と振り返ることになる。</p>
<p>報告書の まとめ方 について</p>	<p>妹尾： 報告書では、4つのコマの中で往還することはどう捉えていますか。 往還していることが分かるようにまとめるにはどうすればいいか。</p> <p>田窪： 妹尾先生がしたように生徒の言葉を事細かにみていくことはすごい。 報告書で、特定の子どもを焦点化してまとめるのも一つの手ではないか。</p> <p>妹尾： ステップベースではなく、人ベースで考えることが必要なのでは。 色々な先生に授業活動をまとめてもらうことはハードル高くなりそう。 もっと、難しいことを言えば、複数人の子ども別にまとめることがいるかも。 子どもの表情も含めて、場全体の空気が見れることも必要かもしれない。 次のターゲットである武田先生なら、どんな風にまとめたいですか？</p>

	<p>武田： 時間の流れにそって、子どもの姿を振り返ってまとめるようになりそう。 同じ時間帯に、色々な子どものステップ1～4の流れがあるはず。 それをどうしようか・・・と悩んでいることもある。</p> <p>妹尾： ステップ1～4のどこに子どもたちがいるのかを見る事 木村： 授業の流れとしてまとめること、の2つある。 子どもの学びがステップ1～4の一方向で時間軸での流れだと勘違いされることが怖い。 読み手に立った時、時系列の方が状況を理解しやすい。 本当は子ども一人ひとりの変遷を理解できる存在としていたい。 だからこそ、ビデオを見ている。</p> <p>ABCで振り分けるのではなく、一人一人が「ここ頑張ってた」が分かるようにしてもいいのかもしれない。</p> <p>松浦： 実践紹介だけでなく、報告書を複数校ですることで、子どもの一人一人の学びがただの時系列ではない、一方向ではないということも必要なのではないか。 それをすると、他の方にもわかりやすいのではないか。</p>
<p>題字について</p>	<p>松浦： 「おうちの図工室・美術室」をそろそろ変えませんか。 各学校で一文字ずつ作りませんか。</p> <p>妹尾： 「夢を叶える図工室・美術室」の配色だけ考えて、各学校で作りましょう。</p> <p>清田： できたら、子どもの活動の中で自然にできてきたという感じにしたい。 計算して作られた・・・！っていう感じは避けたい。</p>
<p>次回の予定</p>	<p>田窪： 次回は、武田先生ですか。 2学期から10時間ぐらいかけてやりたい題材があり、まとめきれてない。 8月にはその相談をさせていただきたい。</p> <p>妹尾： 武田先生は7月にレギュラーとして行う。 8月には、プラスアルファの時間として、田窪先生の実践を検討する。 特に、授業前後で検討会ができたらいいのではないかなと話し合えたらいい。 新規メンバーを増やしてもいいかもしれない。</p> <p>田窪： 日美連でよくご一緒する城野先生に入っていただきたい。</p> <p>妹尾： 他にもご推薦されたい方がいれば、ぜひお声かけくださいませ。</p>
<p>今回のまとめ</p>	<p>妹尾： 本日の会もありがとうございました。最後に清田先生、よろしく願いいたします。</p>

清田： 木村先生、いい実践を見せていただき、ありがとうございました。
子どもたちの声を聴かせてもらえて本当にうれしいです。
世界中の子どもがそういう時間を増やせたらいいな、と思います。

本来の ANCS として、こうでよかったのかな、こうすればいいのかな、と考えることが大切。

大きな柱はあるが、他は自由でもいいと思う。

100人いれば100人のモデルがあるが、それを一つ一つ示すのではなく、
その100人に共通するところを見つけることが大切になるのだと思う。

特に今回は、4つの構造図が授業の流れとして捉えられていることが自分自身の反省点だと思う。

自分が考えていることが、当たり前ではない、ということがあり、どんな方法で広げていけばいいのかを今後検討していきたい。